

作成（2025 年度）

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	池谷 祐幸
所属機関名	生物地球学部生物地球学科
職位	教授
在籍年	10 年

教育の責任

学科の専門教育において植物学分野の教育を担当している。主要な担当科目としては、ミクロ系生物学である遺伝学と細胞学を講義する細胞遺伝学と、栽培植物を主として扱う資源植物学を担当している。また、実習では植物学実習などを担当し、主として栽培植物を扱う実習を行っている。

教育の理念

「百を識って一を教える」を理念とし、現代の研究ないし社会状況の最先端についてまず自分が深く理解し、それを平易にかみ砕くことで学生に教えられるように務めている。同様に、特に教員を志望する学生は、高校で生物を教えるためには他分野を含めた大学レベルの知識の十分が理解が必要であるので、そのように努めてもらいたい。

生物地球学科は理学系の学問を横断的に学べる学科であるので、学生が生物学、地学などの枠を超えて総合的な理解、関心を持つようになってもらいたい。また、本学科の生物系志望の学生は進化への興味が深いので、ミクロ生物学の内容を含めたあらゆる生物現象は進化の産物であるから、常に進化の観点から「なぜ、どのように進化してきたのか（ないしは進化できなかったのか）」という疑問や興味を持ち続けてほしい。

教育の方法・方針

方針 1：学問の分野横断的な理解を深める。

方法 1：生物現象の説明では、単に個々の現象を知るだけではなく、エネルギーや化学反応など物理学や化学などの観点からの説明も出来る限り加えて、より総合的に科学的な理解を深められるようにしている。

方針 2：日常生活との関わりや歴史的な観点からの理解を深める。

方法 2：特に、栽培植物に関連する講義、実習においては、身の回りの多くに植物や植物資源が関わること、さらに前近代においては人間生活の全てが植物資源に支えられてきたことを実感、理解できるように、視聴覚的な資料を含む多くの実例を挙げて説明している。

教育の成果

授業アンケートでは、学生の満足度、教員の意欲、および学生自身の授業の目標への達成については、3 項目とも 5 段階評価の 5 が最も多いことが普通で、4 以上を含めると低い年度でも 8 割を超している。ただし、学生自身の授業の目標への達成度を訊く項目では、他の 2 つの項目とは異なり 5 段階でも 4 の方が多いことが普通である。

今後の目標

教育の方針、方法については各講義の初回で学生に明確に説明する。

また、生物学の教育では沢山の細かい事物（物質名、生物名）を具体的に挙げざるを得ない

が、これは結果的に情報量が増え学生の理解を妨げることに繋がる。一方では、具体的な事物のイメージは理解を進めるうえで重要であるので、こうした二律相反性も学生に説明して、各自が十分に学習するようにアドバイスする。

根拠資料

細胞遺伝学 授業アンケート (2022-2024 年)

資源植物学 授業アンケート (2020-2024 年)

園芸学概論 授業アンケート (2020-2024 年)